



2018年11月7日

各位

会社名 株式会社ヨコオ
代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳間孝之
(コード番号6800 東証第1部)
問合せ先 取締役兼執行役員常務 横尾健司
(TEL 03-3916-3111)

2019年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異、
剰余金の配当（中間配当）の決定並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異、剰余金の配当（中間配当）の決定並びに期末配当予想の修正に関しまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～9月30日）の業績予想値と実績値との差異について
(1) 差異の内容

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (2018年8月9日公表)	百万円 26,500	百万円 1,250	百万円 1,450	百万円 1,050	円 銭 51.90
今回実績(B)	26,645	1,324	1,742	1,287	63.64
増減額(B-A)	+145	+74	+292	+237	—
増減率(%)	+0.5	+6.0	+20.2	+22.6	—
(ご参考) 前年同四半期累計実績 (2017年4月1日～9月30日)	24,765	1,316	1,395	1,071	53.14

(2) 差異の理由

売上高につきましては、回路検査用コネクタセグメントが想定を若干下回ったものの、車載通信機器セグメントの堅調な推移、無線通信機器セグメントの販売伸長に加え、円安効果により、予想値を若干上回りました。

営業利益につきましては、車載通信機器セグメントにおける米国関税引上げや回路検査用コネクタセグメントにおける減収などの減益要因がありましたが、無線通信機器セグメントにおける比較的利益率の高い製品の売上比率上昇や円安効果などの増益要因により、予想値を上回りました。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、9月末時点：1米ドル=110円と想定し為替差益200百万円を見込んでいたところ、実績は1米ドル=113.57円となり為替差益が409百万円に膨らんだことなどから、予想値を上回りました。

(3) 通期業績予想について

通期の業績予想につきましては、前回予想（2018年8月9日公表）から変更はありません。

2018年8月9日公表の前回発表予想時に比べ、米国の追加関税が利益押下げ要因となりますが、一方で、車載通信機器セグメントにおける中国工場からベトナム工場への生産移管品目拡大・移管加速による利益率引上げ、無線通信機器セグメントにおける利益率向上などにより同水準の増益が見込まれることから、通期業績予想を据え置くことといたします。

2. 剰余金の配当（中間配当）及び期末配当予想の修正について

(1) 剰余金の配当（中間配当）

	決定額	直近の配当予想 (2018年5月10日公表)	前期実績 (2018年3月期)
基準日	2018年9月30日	同左	2017年9月30日
1株当たり配当金	12円	10円	8円
配当金の総額	242,831千円	—	161,493千円
効力発生日	2018年12月6日	—	2017年12月6日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 期末配当予想の修正

基準日	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想 (2018年5月10日公表)	円 銭 10.00	円 銭 12.00	円 銭 22.00
今回予想		14.00	26.00
当期実績	12.00		
前期実績 (2018年3月期)	8.00	14.00	22.00

(3) 理由

当期の中間配当につきましては、前記1.(2)及び(3)に記載のとおり、当第2四半期連結累計期間の業績が予想値を上回ったことに加えて、無線通信機器セグメントの収益力向上、回路検査用コネクタセグメントにおける受注見通しの改善傾向などを踏まえ、1株当たり12円（直近の配当予想から1株当たり2円増額）といたします。

また、当期末の期末配当予想につきましても、将来の事業拡大に向けた開発案件・投資案件の進捗が良好であることなどから、14円（直近の配当予想から1株当たり2円増額）と修正いたします。これにより、当期の年間配当金は26円（連結配当性向22.4%）となる予定です。

(注) 本資料に記載の予想数値は、公表日現在入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上